

～国東の世界農業遺産のシンボルの地～荒木川流域 散策バスツアー (2019年3月2日)

国東市を流れる荒木川は、源流域から河口までの直線距離がわずか10kmの小さな河川です。しかし、国東半島宇佐地域世界農業遺産のコンセプトである「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」を凝縮した地域となっています。今回はたった1日で、荒木川の河口から源流域までの美しい景色や特色ある農林産物・おいしい食文化・それらにかかわる魅力的な人たちに出会う「世界農業遺産の神髄を体感できるツアー」を実施しました。



シチトウイ生産者の松原さん

現在全国で「シチトウイ」が生産されている地域は国東半島の8軒だけです。荒木川流域には、その半数近い3軒の生産者がいます。今回は、松原さん宅に訪問し、シチトウイの生産から畳表を作るまでの過程を体験見学しました。



椎茸栽培農家の橋上さんのお話を聞く

荒木川の源流域にある橋上さん宅の「椎茸栽培」のホダ場を見学しました。また、世界農業遺産の椎茸栽培の特徴でもあるコマ打ちした椎茸の原木群をクヌギの残り枝で覆った「伏せ込み場」も見学しました。

お昼は荒木川上流にある「障がい者サポートセンター三角ベース」の「やまのいえ」で、有機栽培のお米と野菜を使った美味しいオーガニックランチをいただきました。地元の木田憲治さんの捕ったイノシシ汁、三角ベース手作りのピワ茶やクワ茶もいただき、楽しいひと時をすごしました。



荒木川上流にある、障がい者サポートセンター三角ベースの有機栽培ほ場の見学



三角ベース「やまのいえ」で、三角ベースのオーガニックランチ（イノシシ汁つき）をいただきながらの交流会

荒木川流域プロジェクト活動発表会 2019年3月2日 国東市安岐町 浄泉寺

このプロジェクトは「荒木川流域の活性化」をめざして活動しているものです。国東市安岐町の荒木川流域の耕作放棄地の解消・環境保全・環境教育・地元の「社会福祉法人共生荘 障がい者サポートセンター三角ベース」との農福連携など…これまでに実施してきた様々な活動の成果を知っていただき、より多くの皆さんと一緒に取り組んでいくための発表会です。春まだ浅い時期ではありましたが、70名もの皆様にご参集いただき、浄泉寺さまの本堂で仏様に見守られながら、素晴らしい発表会を開催す



ることができました。今年度で活動2年目になる荒木川



流域プロジェクト活動の概要、荒木川流域も含まれる「国東半島宇佐地域世界農業遺産」のコンセプト、地元の「障がい者サポートセンター三角ベース」の活動紹介などのあと、国東市在住の小玉宏さんの「たまちゃん講演会」を開催しました。